

## 「教育研究センター？」

日本大学歯学部的小林真之先生のご紹介で今回執筆させていただくことになりました。小林先生も私もともと関西出身で昨年の冬まで大阪大学に所属していましたが、彼は日大、私はさらに遠い群馬大に昨年から赴任しました。私が2000年からスタンフォード大学で働いていたとき彼も同じ年にやってきて、それ以来のつきあいになります。彼も私も主にスライスの電気生理が専門なので、よくラボに行って仕事の話をしました。が、“Work hard, have a fun”(私の元ボス Rob Malenkaによると、この順番が大事だそうです)がモットーのアメリカです。たまに週末サンフランシスコに食事に行ったり、私の運転でモンテレー・カメルの観光に出かけたりしていました。

さて、先に述べたとおり昨年の3月から群馬大学医学系研究科の「教育研究センター」に赴任しました。群大は神経科学が専門の方が比較的多いのですが、なにせ「群馬」のイメージが全くありませんでした。一昨年11月にここのポストのお話を白尾先生からいただいてお話を伺うために、初めて群馬県を訪れました。そのとき上越新幹線に乗ったのですが、「群馬県が埼玉の上(北)にある」こともまたはじめて知りました。

また、新たな所属になる「教育研究センター」というのも耳慣れないものでした。研究よりも教育の名前が先にあるので教育も重視しているのだろうと思いましたが、群大では大学院生を対象に「論文の書き方」の講義から、主に分子生物学的手法を教える実習まで実施しているとのこと。私は「教育研究センター」専任講師として、諸実習のコーディネーター(の手伝い、ホームページの管理を含む)と、新たに大学院生向け「神経生理学」の実習開講の準備(昨年度は東大の関野先生と一緒にに行いました)が主な仕事とのことでした。(博士課程の)大学院生に対して、研究者として必要な基

本的知識・技術を教育するための系統的な講義や技術実習は、あまり聞いたことがなくて阪大でもなかったと思います。

このように新しい環境で新しい仕事に取り組みはじめました。自分のラボのセットアップを行いながら、センターの仕事を始めました。そのうち重要なものの一つに、教育研究センターのホームページの管理がありました。今ではウェブサイトは教育研究機関の重要な情報発信源のみならず、人材募集のための有効なメディアであることが認識されています。そこで、日本語の不自由な留学生たちにも情報を提供するための英語化を含め、ホームページの改訂を進めており、そのマネジメントを担当しました。実際の作業はセンター事務補佐員の柿沼さんを通じて専門の業者が行ったのですが、様々なご意見を多くのセンター内外の先生方からいただきました。そのうちいくつか有益で、かつ実現可能なご意見を白尾先生の御監修のもと取り上げつつ、ホームページの全面的改訂を行いました。新着情報のブログ化、英語ホームページや学内専用掲示板の立ち上げ等、作業量はかなり膨大なものになってしまい、柿沼さんが原稿を作っては、昼夜にわたって頻回業者に連絡をする日々が続きました。その結果新しいウェブサイトは完成し(<http://ercgsm.dept.med.gunma-u.ac.jp/index.shtml>)、その維持を大学の事務に任せられるまでになりました。

教育研究センターはとりわけ教育熱心な群大ならではの組織なのですが、研究科長の後藤先生のご指導を受けて「系統的な大学院教育の実践」のために微力を尽くしたいと思います。最後は教育研究センターの宣伝になりましたが、他学にはない(?らしいです)ということで新たな話題を提供するのも結構かと思ひましてこのような構成にさせていただきました。